

J-52

1450

166
222
213

安藤太郎君演說

在野士愛洗之始末

メソヂスト出版舎

1420

安藤太郎君演述

在布哇受洗之始末



メソヂスト出版舎



布哇國前總領事安藤太郎君

布哇國前總領事安藤太郎君

余一日安藤太郎君の信仰上の經驗を聽き大に感
ずる所あり。因て廣く世人に示さんと欲し君に乞
ひ幸に其草稿を得たり。今之を印刷に付するに際
し我國の諸兄弟が之を讀で益する所あり余と同
感を以て天父に感謝せられんことを希望す。

築地美以教會

牧師 小方仙之助

在布哇受洗の始末

安藤 太郎 君 演 述



私^{わたくし}が今日^{けふ}貴様^{あなた}の御耳^{ごみみ}を煩^{わづら}はして申上^{まをし}げ様^{よう}といふ話^{はなし}は私^{わたくし}が
 先年^{せんねん}布哇^{ふわ}國^{くに}に於^おて「キリスト」信者^{しんじや}に成^なりました次第^{しだい}であり
 升元^{しょうげん}よ^うナ^な進^{しん}來^{らい}は世間^よに「キリスト」信者^{しんじや}が随分^{ずいぶん}澤山^{たくさん}にあり升
 から私^{わたくし}如^{ごと}きが信者^{しんじや}に成^なりましたとて格別^{かくべつ}珍敷^{めづか}もない譯^{わけ}で
 あり升^{しょう}がし^しかし私^{わたくし}を善^よく御承知^{ごしょうち}の御方^{ごなた}はあの男^{おとこ}が「キリス
 ト」信者^{しんじや}に成^なつたとは實^{じつ}に驚^{おどろ}き入^いつた次第^{しだい}だ何^{なに}んでも職掌^{しやくしょう}
 上一^{じやういつ}時^{とき}の方^{かた}便^{べん}か左^{ひだり}なくは世間^よにまゝある不^ふ平^{へい}か又^{また}は物好^{ものずき}
 きから宗^{しゅう}教^{きやう}を玩弄^{がんりやう}するの類^{るい}であらふなどゝ惡口^{わるくち}を御^ごきこ
 になる人^{ひと}達^{たち}も随分^{ずいぶん}ありまし又^{また}是^{こゝ}迄^{まで}世間^よ一般^{いぱん}の無神論者^{むしんろんじや}
 に「キリスト」教^{きやう}を説^とき升^{しょう}と其^{その}教理^{きやうり}を善^よくも聞^ききませんで反^{はん}

對論を唱へ升廉々が誠まことに善よく私わがが未信者みしんじやの時ときと同感どうかんであ
り升のぼりから是こゝは彼かれやに付つき何なにか人様ひとさまの御参考ごさんこうにもと存ぞんじ一ひとと
通り御話ごわし致いたしましよふ元來もとより私わがは是こゝぞと申まをす問もんも何なにもあ
りませんが年としが年としですから見みまね聞きかちりて漢洋かんやう哲學がくの
小理せうり屈くつは随分ずいぶん共に腦髓のうずいに染しみ込こんで居ゐり升のぼりに品行ひんぎやうの一ひと
條じょうに至いたりまして肉體にくたいの慾情よくじやうには兎角とかく束縛そくばくを蒙かうり勝かち
て克己こくぎ復禮ふくれいなどの嗜たのみは更さらに無な之の人物にぶつでしたから宗教しゆきやう類るい
は一切いっさい不得意ふとくじやうであり升のぼ内就中ないしゆちゆうキリストきりすと教けうは極々ごくごく嫌きらひ
ました何故なにゆゑ又またそう極ごく嫌きらひでしたかと申まをす種々しゆしゆ原由げんゆうもあり升のぼ
が其重そのおもなる一ひとは私わがは是こゝ迄この久敷ひさしく海外かいがいに居ゐりましたが其際そのさい歐お
米人べいじんが動うごきともすれば我々われわれ亞細亞あしや人じんを指さして偶像おうざう宗しゆの人民じん
と稱しやうし自分達自分たちを「キリスト教きりすとけうの國民こくみんと唱なへ升のぼ處ところ其實じつ彼等かれらの

所謂所謂偶像おうざう宗しゆとは野蠻やまんとの異名いめいで「キリスト教きりすとけうとは開化かいけの別號べつごう
であり升のぼりから何分なにぶんにも小癩こしかに障さりて溜たまりませぬ殊ことに御承ごしやう
知ちの通り歐米人おうちべいじんと申まをした處ところが中間ちゆうかんには金かねや智慧ちゑこそ我々われわれ
より澤山たくさんありましても道德たうとくの點てんに至いたりましては随分ずいぶん我々われわれの
眼めにも甚はなはしいと見みゆる者ものもあり升のぼりに夫等それらが無な闇やみに「キリ
スト」くと唱なへ升のぼりから愈益いよゑきキリスト教きりすとけうが嫌きらひに成なりまして
後のちには彼等かれらより足下あしもとの宗旨しゆじは何なにんだと尋たづね升のぼり何なにやら向むか
ふ面おもてが張り度はりど成なりまして平常へいじやう不沙汰ふさたな佛法ぶつぽうを擔かぎ出して
拙者せつじやは眞宗しんしゆと申まをす一派いっぺいの信者しんじやであるなど返答へんたうして矢やたら
に佛徳ぶつとくを稱揚しやうやう致いたした事が毎々まいまいありました右みぎの次第しだいですか
ら宣教師せんけうし等らより宗教しゆきやうの勸すすめなどに與あり升のぼりは惡寒あくむかの出で
るほど嫌きらひでありまして一度いちどでも勸すすめをした人ひとには最早もはや二度にど

と再び面會致しませんでした今から考へて見升と實に可笑しくあり升が凡そ文明の人間世界に何が不幸だと申して宣教師ほど不幸至極な生涯はあり升まいと存じた位ですから餘は大概御推察が出来ましよふ然るに斯る耶穌嫌ひの私が如何なる次第より公然外國の寺院に於て洗禮を受け信者の一人と成りましたかと申に御承知之通り私には明治十九年布哇在勤の總領事を拜命いたし同地に赴き三ヶ半年餘も滞在致して居りましたが扱私の参りました頃にも既に我國の出稼人は三千人程も居りまして其行状はどうかと申に男子は飲酒に溺れ博奕に耽り又女子は種々の亂りがましき所行を致し行々御國の御外聞にも相成る様な勢も見えまして何分捨置き難くありましたから

或は説諭を致したり又は布告を出したりして種々取締向に着手致して見ました處惡風は愈益増長致しまして如何とも致し方なく當惑を極めて居りました其折柄米國桑港より基督宣教師で美山貫一と申人が参られました數千人の出稼人の間を處々方々と駈け廻り熱心に風俗矯正の爲め説教致しました處が博奕打ちは骨子を投げ出し酒飲みは「コップ」を打ち毀すなど不良の者共か一時に悔ひ改めまして其當坐は領事館の手數も餘程減りました位ですから流石耶穌嫌ひの私も是には實に辟易しまして此れ程迄にも「キリスト」教と申者ば風俗矯正に効能の有る物か成程愚民には至極宜しい者だと始めて注意する氣に成りました即ち是が私の「キリスト」信者に成りました原因であります

した乍併此時はまだ俗に申す賛成者丈けの事で信仰は扱
置き聖書さへも調べる氣が出ませんでした然るに其儘捨置い
る一度説教して直に桑港に歸りました凍やすの譬で又候
た日には所謂一日之を暖めて十日之を凍やすの譬で又候
以前通りの亂暴に成り升は必定ですから何卒して不絶人
民等に説教致させ十分に取締りの道を立たいと存じ其筋
の人々とも相談致しまして再び美山氏夫婦其他の宣教師
を米國より招き愈布哇の都「ホノル」へ日本人の基督教會
堂を取立ました處そふ成つて見ると不思議な物で美山氏
が如何程説教が上手でも落語や軍談と違ひまして根が銘
々の好きなき酒だの博奕だのを止めると申御談義の事です
から後には聞手も自然足が遠くなる様子に見えましたゆ

へ是では成らぬと存じ私には先達と相成り毎安息日には
務めて會堂に出席致し説教聴聞に及びましたが云は、ほ
んの御附合一遍の事ですから何分にも退屈至極でありま
した去り迎私が中途で止めましたら夫れこそ聞手に差響
きを起し升は必定ですから此れには甚當惑致しました此
折思ひ當りましたは善く是れは我々が歐米士君士中宗教
に熱心なる人を見ますと彼は政略だの是は虚喝だのと口
癖に申した者でありますましたが信者と申名目丈で濟ませる
事ならイヤ不知信者の義務を満足に盡し升には其人が眞
面目でなければ決して出来る者でないと思事発明致し
ました扱此困難の場合に際し段々考へて見ました處是迄
は例の怪力亂神を不語だの佛は夷狄の一法だのと申儒者

八
理屈や又は歐洲の進化主義に化せられて所謂喰はず嫌ひ
で新約全書一遍の素讀も致さず唯一概に宗教と云へば不
問に措きましたたが右は我ながら甚以て偏屈の至りで又風
俗改良には至極結構なる者と氣が付きなから自身には更
に之を研究せずして唯他人にのみ無闇に勸めるのも甚謂
はれなき次第何ぞと申すと愚民々々一口に申し升けれ
ど私は其愚民と如何程の相異があり升か僅に縦文字横文
字の數を少々ばかり餘計に心得て居る位の事にて善々穿
鑿致したら其愚民殿に耻入るべき事柄が幾許あり升か分
りません殊に愚民どころか歐米文明諸國に於て上は王公
より下庶人に至る迄十字架の下に誰一人として膝折り屈
め禮拜致さぬ者はありません尤も是は宗教上から出た一

遍の風俗丈けの事だと見ました處が彼等の内世界に何人
と指を屈する立派な學者大人達が熱心に尊信致して居り
升ではないか又其上に文明諸國の歴史の根原も詩文の原
由も法律の精神も就中道德の基本と云ふも盡く舊新兩約
書より出たる趣は争ひ難き事實で何共以て不思議千萬な
る書物であり升から私共苟も泰西の文明開化を學び升る
以上は此書物を是非共一と通りは調べて見ないでは相成
るまいと存じ付きましたからそこで漸く馬太傳の一章か
らポツ／＼讀み始めましたが先づ第一に耶穌の系圖の片
假名の澤山なるには頗る閉口致しましたるに續て「ヨセフ」
の夢物語から東方の博士が星に誘はれて救主の降誕を尋
ねに出掛けるなどの處は漢士古代の歴史中創業の天子な

どの降誕には板行で押したような極り文句に誠に善く似
て居り升から成程少し氣の利いた人間はいやがる筈だと
考へながら先づ辛抱致して段々讀んで参り升と最早
堪忍袋の緒が切れましたは耶穌が舟に乗り後れて浪の上
を歩み又は五つのパンを以て五千人を養つたなどの奇蹟
で迎も聖書を我慢にも手に取る氣に成らなく成りました
實に其時嘆息致しましたは嗚呼惜しい事だもし此の馬鹿
げた奇蹟さへ無ければ孰も修身齊家に必要なる教理の事
ゆへ如何な私でも一と通りは素讀も出來そふな者を扱も
扱も一時は總て中絶致しましたが去り迎是まで研究致そ
ふと決心したに中途で止め升のは何共殘念でありますし
又一つには半分職掌とも可申場合に成つても居り升から

種々勘考致した上で米人の或る宣教師に事の次第を話し
まして聖書を讀む氣に成るに何か善き書物はあるまいか
と尋ねましたら無名氏作で救魂の理論とでも申しますか
英語では Philosophy of the Plan of Salvation と云ふ一小冊を貸して
呉れました
扱此書物は御承知の方もありましたよふが其論説は中々澤
山に有りましたして今茲で一々申上げる譯には参りませんし
かし其大意と申は詰り基督の救は何故我々人類に必要な
るやの理由を説きましたる者で第一に人間は宗教的の活
物であるから何か拜まらずには居られないと説いてありま
したモ、そふすると直に私は何を拜まらずとも差支は無
と申了簡が浮んで参りましたが夫では一も二もないと存

じ先づ辛抱して讀んで行きますと抑も禮拜なる者は敬慕
の意より起る者にて人若し何物なりとも之を敬慕する時
は之を禮拜して其性質に倣はんとするに至るは自然の人
情なり左れば手本ども成すべき禮拜の目的物が泥や木に
て造られたる資性不完全なる偶像にては甚不都合には無
之や故に苟も萬物の靈たる我々人類が禮拜せんとする者
は即ち完全無缺慈愛無量なる天地萬物の造り主たる眞神
の外は他に一物も有之間敷云々と説き始めて有りました
左れども此れ丈けの事では中々以て得心が出来ませんでした
したが追々進んで無神論者に有神の證據を懇々説明致す
一段に至りましたは余程理屈も綿密でありましたから是
には大分感心いたしました一昧私迎も神とこそ申しませ

んが靈妙不思議な一種の自然力が此宇宙間に存在して居
りましたして萬物を創造し且之を發育致します事は以前より
固く承知いたして居りました何んもなく氣には掛つて居
りました又是迄世の中の學者連中が如何程込み入りたる
議論をして此自然力の出處の取調方に至り升とギツク
リ詰つて何れも不満足なる辨論を以て遣ひ拂を濟ませる
様に見えました然るに若し此場合に於て宗教上から慥に
神ありと見定めが付きました日には夫こそ一切何ものも
神の力と極める事が出来すから如何なる六ヶ敷き問題
もスラ／＼滞りなく分つて仕舞ふに相違ありません其有
様を譬へましたらトント廣大至極に込み入りたる蒸氣機
械へ一と吹き蒸氣が吹き入るや否や有るとあらゆる諸

道具が隅から隅までガツと運轉し始める様な塩梅
でありましよう然るにその一切を神の力と極めるには唯
神ありと信ずる斗りでなく神は全智全能なる者形なくし
て何處にもいまさゝる事なき者慈愛に富める者潔白にし
て正直なる者など云ふ神の性質は申に不及聖書の黙示
即ち神が預言者なる者を通して我々に示されたる法律訓
誨其他の謔宣共執れも異論なく信用致さねは矢張り種々
の難題もスラ氷解する場合は決して参りません處
聖書で最も肝心と申所の奇蹟即ち理外の理が何分にも邪
魔に成りまして右の神性も默示も之が爲めに中々信用致
す譯に行きませんでした扱其邪魔と成り升奇蹟の事に付
きても右の書物に段々合點の行くように論じてありまし

たが其内で一番成程尤だと感じましたは我々動もする
と神の行ひ給ふ奇蹟の事に付き是は理屈に合はぬとか彼
は奇怪千萬だとか申して果ては無神論の極端に走る者あ
れども是は畢竟我々動物と神との働に夫々の區域有る事
を承知不致より起りたる謬りと申可なり其次第は凡そ此
天地間に働作を爲す者何萬種あるも之を大別すれば人類
と其他の動物の二種に外ならざるべし因て茲に働作の範
圍を三段に分ち下段を動物の範圍と定め此内には鳥獸蟲
魚一切の動物を含蓄し夫より中段を人類の働作範圍とし
上段を即ち神の區域と定めたる處で扱今下段なる動物よ
り中段なる人類の働作を仰望したらんには必ずや事々物
々鳥獸等の眼には奇怪至極不條理千萬なる者ならん既に

十六
同じ人類の内ですら文明人の蒸氣電信の作用を野蠻人が始めて見た時は魔法だと思つた事は珍らしからぬ話である位然るに右鳥獸等の怪しとする事物を人類の範圍内に立ち入り夫々取調ぶる時は孰れも理屈に叶ひ筋道に合ひ少しも不足怪なり夫より順繰りに此度は中段の人類より上段を望んで神の動作を窺ひたらば如何あるべきや即ち此處が邪魔に成るべき奇蹟の顯はるゝ場合にして事々物々我等の眼に不條理至極と見ゆる所なり實に是は尤千萬なる次第にして如何程似て居ても猿は猿にして萬物の靈たる人間の舉動の彼等に別るべき筈なし夫と同様如何程文明開化の學者連中でも根が五官の助けを假らざれば何事も通知する能はざる不完全至極なる人類の身を以て全

智全能なる神の動作を一々人間界の理屈に合はして測り知るべき謂はれなし然るに其不理屈なる奇蹟も若し一歩を進めて神の動作範圍内に踏み入り取調べたらんにはかの鳥獸等の奇とする人間の動作が奇ならざると同様神の所謂奇蹟なる者も神の區域内に於ては孰れも理屈に協ひて更に奇とする者なかるべし云々と説てありました元より根が無形の事柄故議論を始めた日には際限は有りませんが私には此説が至極理屈に合つて尤千萬に聞えませんでしたから夫よりあれやこれやの書物に引合はせて勘考しましたた處始めて人智は神力を測るに不足と申事が判然合點が行きました其合點と同時に再び聖書を手取る氣に成りました夫からは是迄邪魔になりませんでした奇蹟が追々目に障

十八
らなく成りまして遂には此奇蹟があるので聖書の聖書たる
る所以を發明する様に成りました併し此發明は餘程後日
の事で中々急には左様参りませんでした切前にも御談致
した通り何分讀む氣に成りませんでした聖書が再び手に
着く様に成りまして先づ神丈けは有ると見認めが付きま
したが是より猶一層困難を極めましたは耶蘇は神の子か
但しは唯の人間かの一問題でありました元來如何なる耶
蘇教の反對者でも耶蘇は豪傑とか又は聖人で孔子や釋迦
と併立する者だ位の事は通例明言して居る様ですから人
間と見て譽め立て升分は何の雜作もありませんが若し人
を神の子と見認むる段に成りますと耶蘇と我々の身の上
に容易ならざる關係が出来致して参ります其次策は先づ

我々の先祖は神に罪を犯したるより我々は子々孫々神の
罪人と生れ來りて孰れも神より至當の刑罰を受けねばな
らぬ譯であり升處慈愛に富める神は之を罰するに忍び玉
はず兼て我々の先祖に約束し玉ひし通り其獨り子なる耶
蘇を自今一千八百九十年前猶太國ナザレの處女マリヤに
降誕せしめたり左れば耶蘇には三十三年間此世に在りて
人々に悔改めの道を教へたる後預言の通り我々の罪に代
り身を十字架に懸け死後三日目にして甦り人々に出現
したる末昇天に及び父なる神の右に坐し彼所より生ける
人ど死せる人どを裁判せんが爲めに來り玉はんとす故に
我々には今日此試みの世の中にある間一刻も早く自身の
罪過を悔ひ改め聖靈の洗禮を受け「キリスト」の救を仰ぐべ

し不然時は獨り此現世に於て禍難憂苦を蒙る耳ならず未
來に於ても永遠無限の刑罰に陥るべしと申事にて「キリ
スト」信者たらん者の第一番に篤と心得べき眼目たるは私
が今更喋々する迄もない事と存じ升然るに一通り神有
りど見認めました者にも此等の箇條は何分にも右から左
へ得心致されませんでした先づ其次第を申升れば第一に
神は全智全能にして何事でも出来ざる事なき者であり升
のに何故人類を造るに善ばかり爲して決して悪を行はざ
る様には造り玉はざりしや不審千萬なりとの疑が起りま
した又我々を凡べて罪人なりと判断せらるれども他人は
不知私には是迄人殺し火附け竊盜の如き公罪は勿論苟も
真心に耻べき所業は決して振舞ひたる覺え無之と自身で

無罪宣告に及びましたソコ肝心なる「キリスト」の救が一
向必要でなくなりました夫より靈魂の不滅と未來の裁判
の點に至りましては書生の頃より佛法の地獄極樂を馬鹿
に致した癖が何處が何處まで附て廻はりまして何分にも
其道理を研究する丁簡に成りませんでした故折角例の冊
子に丁寧反覆して説てありました箇條も一向讀む氣に成
りませんで再び福音書の研究を中絶致さんどしましたが
去り迎是程迄に辛抱して調べて參つた「キリスト」教を今更
半途で見限り升のは如何にも残念ですから又種々雑多の
書物を引出し段々吟味して見ました處靈魂の不滅と未來
の裁判が第一番の故障ではれさへ分れば外は格別六ヶ敷
くない様に見えました扱前にも申した通り一旦神ありと

見認めの付きました以上には先づ以て神が我々人類の身
軀精神を如何様に造られしや又其周囲の萬物を人類の爲
めに如何様に組立たるやを取調べて見升のは此際必要の
事だと存じ夫から夫へと考へて見ました處神の我々人類
の都合を謀り注意を加へらるゝ事は實に何共譬ふるに詞
なき次第でありますした然るに斯くまで人類の爲めには
目なく世話せらるゝ神が如何なれば人類に取て最も肝心
なる道徳の一點に於ては善を爲すも賞する事なく惡を行
ふも罰する事なくして唯此一條のみは不完全なる人智の
教育や法律にのみ打任せ更に不顧と申す道理がありません
よふか甚以辻褄の不合次第柄であります若し又愈人類は
此世限りの物にて善人も間が悪いと艱難辛苦の其上に短

命で相果ても夫れ切り又悪人と雖も時運次第では富貴
樂心の儘にて天年を全くしても夫れ切りにて如何程全智
全能なる神でも此れ丈けは致し方なき者である日には人
間の社會ほど恐ろしき者はなく又人類たる銘々ほど哀は
れな動物はないと思はれます併し先程も申升通り斯く迄
人類に深切なる全智全能の神が決して我々を其様な恐ろ
しき哀はれなる有様に捨置かるゝ筈が無いには明白に分つ
て居り升からそうして見升と靈魂の不滅は即ち人類の他
の動物に異なる要點にして未來の裁判は萬不可止の事實
と慥に合點が行きました實に此の二ヶ條は私に取ては「キ
リスト」教諸難問の鍵又は謎の題とも可申者でありまして
此れが分明に解けますと一度に前に述べましたる我々が

罪人なる事も神が人類を造るに善悪を選ぶの自由を與へ玉ふ事も「キリスト」の救の必要なる事も又引續ひて「キリスト」は神の子たるべき事も盡く氷解いたし露ほども不容疑様に成つて参りましたと何やら夢でも醒めたる様な心地が致して遂に洗禮を受けましたは即ち一昨年七月十五日の事でありました

扱右は私が洗禮を受ける迄に決心の出ました由來の荒増であり升元より今日から考へて見ますと論説の立方が随分とも迂濶な上に誤解の廉も不少様に存じ升が夫でも是れが神ありと信じ「キリスト」を救主と見認めました根本で私に取ては餘程の幸福でありました然るに馬太傳第五章に心の貧しき者は福なり天國は即ち其人の有なればなり

と申す通り若し私が夫れこそ一丁字も不知して心が眞に赤貧空虚で小兒の如くになりましたなら「キリスト」教の眞理は一も二もなく會得する事が出来たでしよふが何を申すも御覽の通り心の庫には我羅苦多道具が例の變則で亂雑に推込んでありましたから何分其庫内へ眞理の入るべき寸隙もありませんでした夫ゆへ是迄は聖書や説教が庫の戸口に音づれましては庫番は皆斷りを申して通行を許しませんでした然る處此度は斷り切れぬ場合と成り暫時眞理を庫の戸口に待たせ置き庫の内より例の雜物を段々取出して其跡へ案内致したと申す譯合であり升夫でもまだ幸な事には私の庫の雜物は御承知の通り孰れも手輕な品物故運び出す段に成り升と格別手間も掛りませんでしたし

たが世間の方々の心の庫には貫目の有る物品がシカモ正
 則で隅から隅までヤツクリ詰め込んであるのが澤山にあ
 りましようから夫で眞理が如何程音づれましても庫番は
 一向耳にも不掛又はケンモホロ、の挨拶で拒絶致し升の
 が一般である様に存ぜられます併し「キリスト」教の眞理に
 付ては論より證據が澤山にあり升から皆様の内若し未信
 者の方があり升なら何卒御庫の貨物を何程か御運出しな
 されまして眞理に場處を御興へ下さるゝ様失禮ながら御
 注意申し升

明治廿八年三月四日印刷
 同年三月七日發行

編輯者 小方仙之助

東京市麴町區有樂町三丁目二番地

發行者 清水俊藏

本多庸一出店主
東京市麴町區紀尾井町三番地寄留

印刷者 高田乙三

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

發行所 メソジスト出版舎

東京市京橋區銀座三丁目八番地

7-52

日八街
東京市東區
出理會

廿六
東京市東區
三

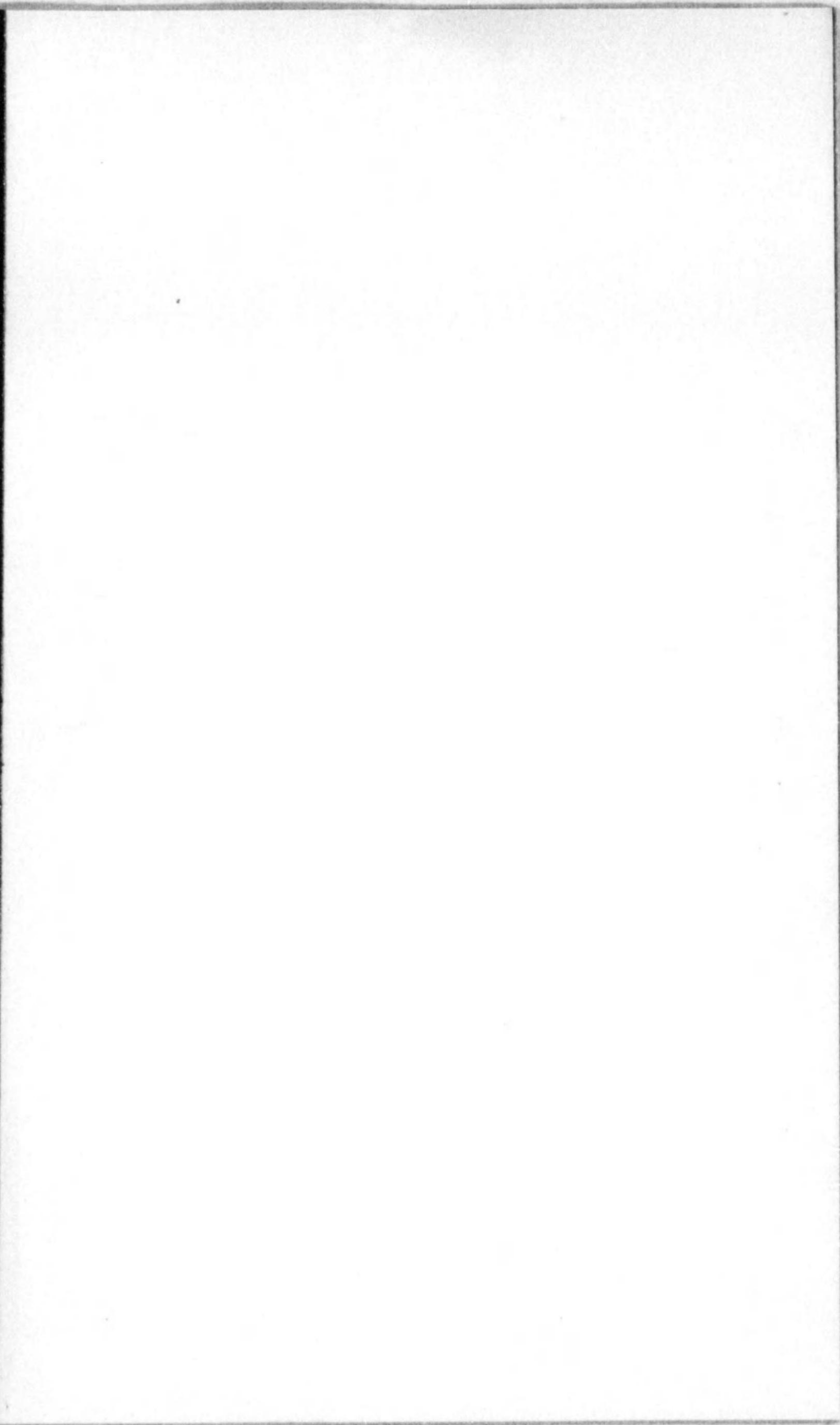
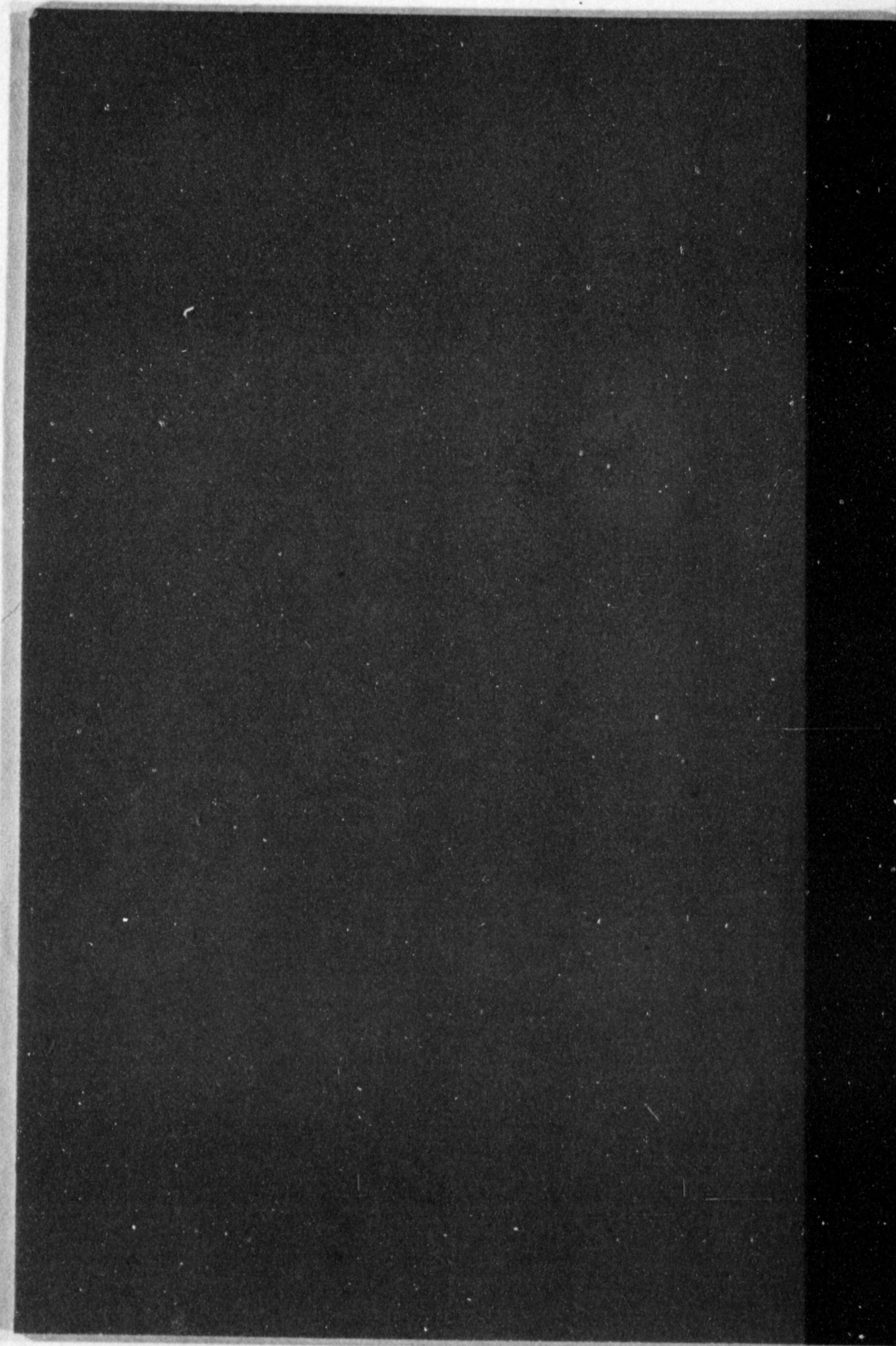
三
東京市東區
藏

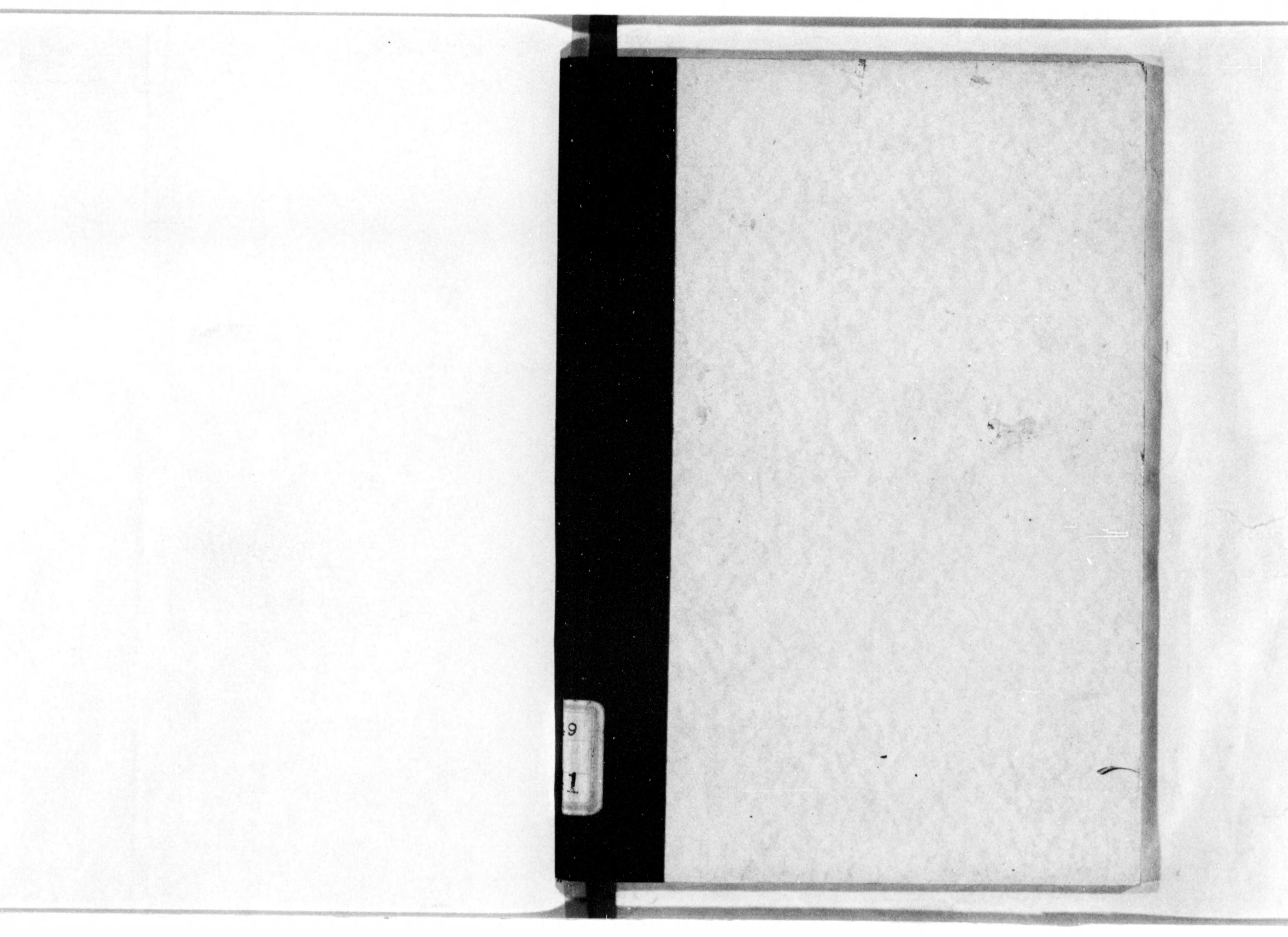
丁
東京市東區
三

書
水
藏

同
年三月四日發行

同
年三月一日發行





9
1

在布哇受洗の始末

安藤太郎

国立国会図書館

020658-000-3

特49-441

在布哇受洗の始末

安藤 太郎 / 述

M28

ABI-0474



特

4

